

広報・教育部門

「下水道×アート×SDGsプロジェクト」

神戸市

受賞事例の概要

1. SDGsの取り組みを分かりやすく発信

- ①下水道事業の重要性を多くの方に伝えるため、神戸市公式YouTubeチャンネルで14本の動画を定期的に配信。
- ②効果的な広報活動とするため、検索ワードのビッグデータ解析を活用。
- ③職員の想いや下水道の魅力を最大限に表現するため、全て職員の手作り。

2. 下水道×アートのコラボレーション

- ①下水処理場をアート展示の舞台とすることで、魅力アップ。
- ②アート関連団体との連携により、下水道応援団を増加。
- ③障がい者アートを巨大壁画として、処理場に展示することで、処理場を働きがいを感じてもらえる場として提供。

3. 成果

- ①10社を超えるマスコミで放映、掲載。
- ②動画は、合計4万回を超える再生回数。
- ③障がい者アートの展示により、SDGs「8.働きがいも 経済成長も」を追加。
- ④40名を超える職員が携わることでチームワークが向上。



#1YouTube動画 サムネイル画像



動画再生リスト



壁画アート(横4m×縦3m、2面)

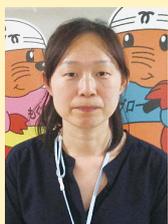
PRポイント!

職員みんなで監督・出演・撮影・制作等、すべてを楽しく・積極的にこなし、下水道への熱い想いを動画に込め、全世界に発信しました。職員が全力で演じるマンホールレンジャーや、職員しか撮影できない施設内の貴重映像等、見どころが満載です。下水処理場にいるどりを加えてくれたアート作品も、動画で紹介しています。コロナ禍で見学に来られない多くの人を選んでもらえる動画、見てもらえる動画、心に残る動画を作るため職員みんなで議論し、形にしました。

取組の効果!

職員のアイデアを多く採用した結果、ユニークで面白い動画となり、新聞社等からの取材が増えたと考えています。また、マンホールレンジャーが登場する動画を出前授業で使用した際には、小学生からサインを求められたり、ファンレターをもらうこともありました。SNSとともに、従来メディアでも発信してもらうことで、広報効果が増し、本来の目的である下水道の公益性の周知等、社会ニーズに応えることができました。

Key Person



建設局東水環境センター
水環境係長 岡野内晃代

取組に関するエピソード

- ・初挑戦のYouTube動画のため、動画の構成や再生回数を伸ばす方法を考えるのに、大変苦労しました。多くの職員の知識や技術を取り入れることで、問題が解決でき、今となっては楽しい思い出がいっぱい詰まった動画ばかりです。
- ・アートに関する知識が無かったので、著作権や色補正等、勉強しなければならないことが多かったです。作者やアート関連団体の担当者の元へ足を運び、話をすることで連携事業がスムーズに進むようになりました。
- ・今年度より、建設局全体での広報活動に携わっています。部を超えた人と人との繋がりや相互理解が深まることで、神戸市がパワーアップしていく雰囲気を実感しています。